

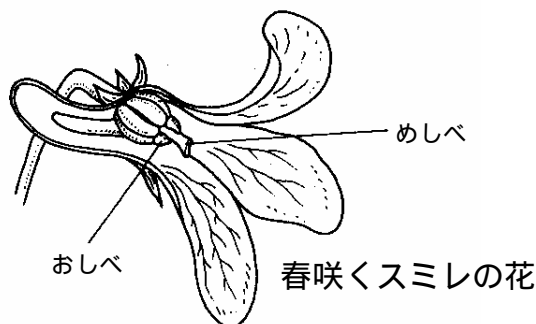


スミレの花が、春咲かないのに、秋になぜ種ができたの

花が咲かずに種を作るスミレがある

日本には、およそ56種類の野生のスミレがあり、それぞれに近い仲間もふくめると、200種ぐらいにもなるといわれています。これらのスミレは、たいてい、春3～6月ごろ花が咲きます。下側についた花びらのおくにはみつもあり、虫も飛んできて、花粉を運んでくれます。ところが、この春に咲く花には、種ができないスミレの種類があります。これらのスミレの花には、花粉があまりついていないためです。ふつう、おしべの花粉がめしべについて、はじめて、種ができるのです。

これらのスミレは、夏から秋にかけて、春のころとはちがった形の、つぼみをつけます。(スミレの種類によっては、葉の形も春のものとはちがうことがあります)。このつぼみは、花が咲きません。咲かないまま、花の中で、おしべの花粉がめしべについて、種ができるため、閉鎖花とよばれています。種が熟すと、はじめて外に種をまき散らします。



種を作る花は、花のつくりがちがう

花が咲かないで種を作るつぼみは、花びらがなくなっていて、大きく育つおしべの数も2個になり、めしべは短く、その先がおしべの方に曲がって、花粉がつきやすいようになっています。(監修・矢野 亮)

